

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072400538		
法人名	株式会社イクロス		
事業所名(ユニット名)	グループホームパル白浜		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2927-80		
自己評価作成日	令和3年11月8日	評価結果市町村受理日	令和4年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3072400538-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3072400538-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年12月9日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の高齢化が進んでいく中で、退去により、新しい利用者様を迎えることが多くなっている。その方々の支援の在り方を職員全員で考え、以前からおられる利用者様との調和を保ちながら、すべての利用者様が快適に過ごせる様に努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

常に入居者を大切にしている気持ちを職員一人ひとりが持ち、本人本位の関わりが行われている。入居者と接する中で、職員の気付き力を重要視し、「入居者の自尊心・プライバシーに配慮したより良い対応ができるよう」話し合いを重ねている。訪問診療・訪問看護と密に連携を図っており、医療ニーズが必要な方も安心して過ごせるよう医療体制が整えられている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の介護の中で、理念に基づいた支援ができるように意識し、努力している。	「共に笑顔で過ごそう」という独自の理念を事務所に掲示し、楽しいことや笑える会話を作り出していこうと取り組まれている。併せて、ミーティング時等に職員間で再確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、町の催し等には参加出来ない。	コロナ禍の影響に伴い、入居者の安全第一を考え交流が難しい状況である。コロナ以前は、町内会の夏祭りに参加し屋台を楽しんだり、秋まつりではお神輿が通るのを楽しんだり、季節ごとのイベントで地域との交流を行っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部との交流は難しいが、認知症カフェなどを開催し、事業所内での交流を持ち発信につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日々の状況や活動内容など報告し、意見を伺い活かすようにしている。	2か月毎に、町の代表者・町の職員・家族の代表者等が参加し開催している。日々の入居者の状況が報告され、家族から出された意見等を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	方向すべき事例は伝えて、信頼関係を築くよう努力している。	市町村の職員等と必要時には連絡を取り、包括支援センターの方には自社での研修の際にアドバイザーとして参加いただくなど、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三か月に一度身体拘束委員会を行い、全職員にk口頭での報告、議事録の閲覧、サインを必ず行い、日々の支援で意識的に取り組むようにしている。	定期的に身体拘束委員会を開催し、どのようなことが拘束になるのか話し合うとともに、職員間で日々話し合いの機会を持つことで、意識したケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年外部から講師を招いて学ぶ機会があり、日々意識的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加するなど学ぶ機会を持ち、必要に応じた支援ができるように努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、十分な説明を行い、納得して頂いた上で契約いただいている。改定等の場合も同様に行うよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、家族様への電話連絡、面会時等に意見や意向を聞かせていただくよう心掛けている。	入居者の家族とは、電話や面会の際に意見や要望を伺っている。家族から出された意見を職員間で検討し、運営に反映させる取組みがなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の、勤務中やミーティングの際、職員に意見や提案を求め、反映させるよう努力している。	2か月に1回実施している社内研修の際、意見を聞く機会を持っている。また、常日頃から、意見が出やすいような関係性づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々のレベルに応じた研修の提案等、レベルアップできる環境を提供するよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に応じた外部研修や、社内研修へ参加する機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加する事で交流し、新たに得た情報などを反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの不安なことや要望等、聞ける方からはよく聞き取り、それが難しい方は、家族様から聞き安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人について家族様とよく話し、要望等お聞きし、安心して頂ける様な信頼関係作り に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけ多くの情報を収集し、本人の状態を見極め、その時必要としている支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意思表示が難しい方も多いが、常に皆で共に生活を送っていることを感じていただける様努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ家族様の思いにたって、本人様を支えていく事を心掛けながら、ともに支える関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響、高齢化などで難し場合も増えているが可能な限り努力している。	入所後も本人が以前利用していた馴染みの床屋を利用したり、かかりつけの医院への通院を継続する入居者がいる。コロナ禍以前は、知り合いの方の来訪もあったが、現在は、入居者の安全第一を考えて来訪は実施していない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や個性の違う方々同士が、お互いを認め合い、支えあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了するときは、死亡時がほとんどなので、その後の関わりはほとんどない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを聞かせていただける関係作りに努め、意向を把握できるよう努力している。	ひとり一人の思いを引き出せるよう、関係づくりに取り組まれている。意思表示できない方には、どう対応していくか職員間で協議するとともに、試行錯誤しながら、本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様、ケアマネジャーなどからの情報収集によって把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通して、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングは、職員全員が参加するようにし、それぞれの意見が反映され、本人に即した介護計画を作成している。	介護保険の更新時には再アセスメントを実施し、本人家族の意見も伺ったうえで、ケアプランに反映している。主治医・看護師の意見も聞くとともに、全職員から意見を聞き、きめ細やかなプラン作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、不十分な時もあるが、些細な変化や発語などをできるだけ記録し、介護計画等に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて、必要な支援が行えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で、以前のように外部から招いての催し等が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からの主治医の元で、受診が継続できるよう支援させていただける方もいるが、重度化や疾病のより難しくなっている。	本人や家族の希望を基に、以前からのかかりつけ医の受診を継続される場合は送迎等の支援を行っている。専門医の受診が必要な際も、家族の付き添いが困難な場合は職員での対応を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、心身の状態を観察し、職員間で情報共有するとともに、訪問看護師に伝えることで適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が安心して治療が受けられるよう心掛け、早期に退院できるよう病院関係者との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族様の意向をお聞きし、段階ごとに、必要に応じて、改めて伺うようにしている。重度化した際には医師を交え、家族様等とカンファレンスを行っている。	看取りの対応も行っており、入所時に本人・家族等から意向を伺っている。重度化した場合には、本人の意思を中心に再度意向を確認し、指針に基づいたターミナルケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	白浜消防署救急救命士の指導のもと、年二回訓練と急変時の対応等講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	白浜消防署立会いのもと、年二回避難訓練等、利用者様と共に参加し、身につけるようにしている。	年2回消防署立ち合いのうえ、避難訓練を行っている。水や食料などの備蓄もされており、この事業所自体が地域の避難所となっている。法人内には自家発電の用意もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳やプライバシーが守られるよう、日々の支援の中で心掛け、職員全員が意識するよう努力している。	一人ひとりの尊厳とプライバシーが守られるよう、日々入居者の様子を見ながら、職員で協議のうえ、その人にあったきめ細やかな対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望などが表出できるように、日々コミュニケーションを心掛けている。意思表示が難しい方でも表出して頂けるよう働きかける努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースにならざるを得ない場合もあるが、出来るだけ本人様のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で着替えを選んでいただいたり、それが難しい方には家族様から預かっているものから似合うものを選ばせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを張り出し、食事を楽しみにして頂けるよう工夫している。準備などは一諸にさせていただく事が難しい方が多い。	時には握り寿司を楽しむこともあるなど、入居者の好みに沿った献立を考え、全て手作りしている。買い物ができる入居者には、共に参加してもらっている。入居者の手伝えることは限られるが、できる範囲で頑張ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに必要な水分量等を把握たうえで、確実に摂取できるよう記録し、職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの能力に合わせた口腔ケア支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンがつかめない方が多くなってきているが、定期的なトイレ誘導を行うことで、自己にて排泄ができるよう支援している。	排泄パターンを把握し対応が困難な状況の中であっても、トイレで排泄できるということを大切にしている。定期的に誘導を行うことで、少しでも自立した排泄が促せるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や訪問看護師と相談しながら水分量に注意し、必要に応じて薬で調節させていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決められているが、その中で希望があればできるだけ浴うようにさせていただいている。	基本週3回の入浴で対応し、お湯が温泉であるため、入居者も大変喜ばれている。季節に応じてゆず湯等なども提供し、必要であれば入浴日以外の対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて、自由に共有スペースと居室を行き来し、休憩等をして頂き、状態に合わせて声掛け等を行い、休憩がとれるよう支援させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の内容等の理解が不十分な職員もいるが、確実な服薬の支援も含め、理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、利用者様の力に合わせてできることはさせていただき、季節ごとに行事を取り入れ、楽しんで頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出できる機会がある時は支援するよう努めている。	コロナ禍以前はお寿司を買って出かけ、外出先で食したりすることもあった。現在は、制約がある中でも、少人数でのドライブを楽しむなど外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい利用者様が多く、小額をお預かりしている事を伝えても、希望されることはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様から贈り物が届いた際などに声掛けを行い、職員と共に電話して頂く場合はあるが、本人自らの希望はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上難しい点があるが、心地よく過ごしていただけるよう工夫したり、季節ごとに利用者様と一諸に飾り付けを制作している。	吹き抜けの構造は気温管理に問題があるため、ビニールのカーテンで仕切ることで、安定した気温を保つとともに感染対策にも対応している。職員とともに作った展示物も、心温まる雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士、同じ席で過ごしていただいたり、一人ひとりの性格や個性に合わせて、心地よく過ごして頂けるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に持参頂いた馴染みのものを、居室に置いたりしている。	家で使用していた時計や写真等を居室に配置したり、家族からお土産にくれたぬいぐるみを飾っている入居者もいるなど、居心地よい居室づくりに配慮がなされている。部屋の掃除を行うことができる方には、できる範囲で頑張ってもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることを理解し、力に応じて自立した生活を送って頂けるよう努めている。		